

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称： マヤ保育園	種別： 認可保育園
代表者氏名： 園長 渡井 久恵	定員（利用人数）： 110（107）名
所在地： 241-0014 神奈川県横浜市旭区市沢町874-4	
TEL： 045-373-4723	ホームページ： https://mayahoikuen-yokohama.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日	1970年4月1日
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 マハ・マヤ会
職員数	常勤職員： 25 名 非常勤職員： 8 名
専門職員	保育士 33 名 栄養士 1 名
	看護師 1 名 調理員 5 名
	用務員 2 名
施設・設備の概要	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> 居室数： 保育室6、調理室、事務室、風呂場、トイレ （職員用3、乳幼児用各クラス・年長児用） 職員休憩室3、園長室、ホール、図書室、倉庫 </div> <div style="width: 45%;"> 設備等： 駐車場、畑、園庭3つ、運動場・倉庫2（備蓄倉庫含む） </div> </div>

③理念・基本方針

本園は児童憲章、児童権利宣言の精神に則り、児童福祉法及び児童福祉施設最低基準、保育所保育指針等に準拠して、入所児童に望ましい環境と養護と教育を与え、次代を担う児童が心身共に健康で明るく、正しい人間に育つよう、日々努めるものである。あらゆるものが価値を持って共存する世界（曼荼羅）の精神を基本とし、1人ひとりの子どもの個性をかけがえのない大切なものととらえ、慈しみ、愛することから総ての保育（教育）の活動が出発する。集団の規律を損なうことがないように注意しつつ、ゆとりある、あたたかい母性を持って総ての保育活動にあたるようにする。

④施設・事業所の特徴的な取組

マヤ保育園は、50年以上の歴史があり、高台の住宅街にあります。近隣には広大な畑を持ち、土づくりからはじめ、苗植え、水やりなどのお世話をして収穫も楽しめます。じゃが芋やすいか、みかんなどの収穫体験も行います。たくさん収穫し、給食室にお願いし給食に出してもらったりして楽しんでいます。ほかにもきゅうり、トマト、キャベツなど、一年を通じてさまざまな野菜を育てています。土の中の幼虫を観察したり、野菜や土のにおいや感触を楽しんだりしています。このように子どもが自然に触れながら、五感を使ってのびのびと遊べる環境づくりに取り組んでいます。さらに、芝生の園庭では走ったり、ボール遊びをしたり、大型遊具のある園庭では楽しく遊んだりしながら体力づくりをしています。また、お餅つき、運動会、生活発表会、七夕などの行事や特別教室（声楽・英会話・剣道）があり、課外として水泳、造形教室もあります。このように多くの体験ができる機会を提供し、子どもの豊かな育ちをはぐくんでいます。さらに園舎内では、はだし保育を実施し、足裏の感触も大切にしています。園バスで動物園や水族館、大きな公園に出かけることもあります。のびのびと遊び、子どもの成長には食事が大切と考え、食育にも力を入れています。給食は天然の味と素材を大切に、畑からの新鮮な野菜と安全な食材を使ってバランスの良い食事を手作りし、提供しています。自由遊びの時間も多く、子ども一人ひとりが安心して自分らしさを発揮できる生活環境を整え、互いの違いを認め合いながら協力し合い、子ども自身が考え、迷い、決めていくというプロセスを大切にしています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年5月1日（契約日）～ 2022年11月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆多くの体験を通じ子どもの豊かな育ちをはぐくんでいます

園は高台にあり景色が良く、遊具のある園庭や芝生の園庭で元気に遊び、広い畑では土に触れ昆虫に興味を持ち、また、みかん狩りをするほか、じゃが芋掘り、すいか割り、夏野菜の収穫など、土づくりから収穫までを通じて食育にも力を入れています。日常の保育では、言葉を大切に、温かい言葉の心地良さを体験することで、思いやりの心を育てています。3歳児から年齢に応じ声楽、英会話、剣道などがあり、希望者にはプールや造形教室などもあり、多くの体験ができるように配慮しています。このような環境の中、一人ひとりの子どもが自分で遊びを見つけ、のびのびと主体的に活動しています。

◆自己評価と他者評価を通じ園全体の保育の質向上に努めています

保育計画の作成、実践、振り返り、計画の見直しなど、PDCAサイクルを通じて保育の質の向上に取り組んでいます。さらに保育士の自己評価は年に一度、振り返りの目的で全職員が実施するほか、年に一度、同様のテーマで保護者アンケートも行うなど、自己評価と他者評価を通じて、事業の振り返りを行っています。振り返りの結果は、経営案（事業計画）に反映し、課題の解決に向けて次期の事業に取り組んでいます。また、経営案を基本としながら保育計画を作成しています。自己評価・他者評価、経営案・保育計画の作成・実行など、PDCAサイクルを視点としながら、園全体の保育の質の向上に取り組んでいます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を実施するにあたり、園の振り返りを行い、自園への誇りや愛情を再確認することができました。職員や保護者との連携をますます深めていきたいという前向きな気持ちが一層深まりました。自分たちが気付かなかつた良い点にも気付くことができました。更に成長するための気付きがあったことも大きな収穫でした。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり